

シンポジウムテーマ：平成生まれの学生を見据えた学生支援の課題

話題提供：長谷川明弘(金沢工業大学)

キーワード：学生の文脈(context)に沿おうとする適応支援、主体性、多様化、連携

新入生への質問

- 入学動機「どうしてここに来たの?」
- 将来の目標「将来どうしたい?」

新入生の回答例

- アルバイトをする、友達を作る。サークルに入る。遊ぶ。・・・
- 資格を取る。勉強をする。・・・

卒業生への質問

- 回顧「ここに来てどうだった」
- 展望「これからどうしていく?」

卒業生の回答例

- 苦手だったことができるようになって自信がついた。・・・
- 新しいことに興味をもって、それに没頭できた。
- 希望した企業への就職ができて良かった。
- 一生つきあえる友達に出会えた。

回答は、学生(大学、時代)によって温度差がある。

選択肢が広がった・増えた時代・ゆとりの時代

選択肢の多様化 一方で、選ぶこと・決定を求められる(最終決定ではなく当面の決定)

個人の主体性がゆらぐ・主体性のゆらぎが発生する

主体性・・・決定して行動を始めること、背後に責任を持つことが伴う

ゆとり・・・のんびり過ごす、決定を先送りができる、枠のゆるさ・枠のなさ

参考までに

以前は、強迫性が求められた時代

強迫性・・・努力・頑張り、追い立てられる感じ、枠に収める・枠に収まる

大学は全入時代

大学(社会)への適応が求められる。多様な選択肢の中から決めることが許される

(決めない自由も認められる-?-)。

選択・獲得・決定が求められる事項 獲得・選択の先送りが認められる(?)事項

- 学習達成能力
基礎学力、専門知識、討議・発表、教養、資格など
- 生活支援・生活上での自立
自炊、洗濯など
- 集団活動の機会など
一人でも時間を過ごすことができる道具(パソコン、ネット、ゲーム等)の普及・少子化
群れない・孤立(独立・自立)
- 進路や将来のこと
就職、進学など

大学は、場所・機会の提供が求められる

大学で学生に教育しなければならない必要が出てきた。

多種多様なサービス提供の機会(快適さ・便利さの提供)

学生相談(カウンセリング)は、個人の主体性を回復する・確立させる機会

学生が持ってきた文脈から組織内の各部署との連携が生まれる・連携が必要となる

金沢工業大学の場合

- 修学相談室 修学に関すること・学内施設のこと
- 修学アドバイザー 通年で学生を担当する役割
新入生に対して大学への適応を促進する科目を担当
入学後1ヶ月頃を目処に学生の適応の度合いを把握する面談。学年末にも面談を実施
面談の中で入学動機や将来の希望、現在の状態を把握し、必要に応じて、情報提供
- カウンセリングセンター 心理的な課題の相談
- 工学基礎教育センター 数学、物理、化学の基礎から理解を深めるための個別指導
- 基礎英語教育センター 英語力にあった学習支援を少人数・個別指導で実施
- 学習支援デスク 専門基礎科目について学習相談・個別指導(サジェクティブライブラリー)
- 自己開発センター 資格や各種試験の情報・申し込み
- 進路開発センター 就職に関する情報・面接 各学科には進路アドバイザーがいる
- その他
ライブラリーセンター、マルチメディア考房、ライティングセンター、ホビー・ミュージックコレクション、夢考房
キャンパスFM局、スポーツ考房、外国語ラーニングコーナー、生活相談室など

シンポジウム

「平成生まれの学生を見据えた学生支援の課題」

大学への全入時代が言われ、平成生まれの新生を迎える時代となり、学生が多様化しています。対応する大学の側も、学生に応じて、あるいは大学ごとの必要に応じて多様化していく必要があります。学生支援の今後を見据えつつ、最前線でご活躍の方々にご発言をいただきます。土橋先生には就職支援の立場から、桐山先生には相談の多様化への対応について、山中先生には支援システムの実践と研究から、長谷川先生には学生適応支援の成功例から、それぞれお話しいただく予定です。

日 時 5月21日（月）13時30分から16時
場 所 ベルクラシック甲府 2階「オリヴィア」

話題提供 土橋 久忠（山梨学院大学）
桐山 雅子（中部大学）
山中 淑江（立教大学）
長谷川明弘（金沢工業大学）
指定討論 齊藤 憲司（東京工業大学）

話題提供要旨

カウンセリングマインドで、就職・キャリアのサポートを

土橋 久忠

本学の就職・キャリアセンターは、学生の声を最大限に生かし、オリジナルなメニューを構築している。ガイダンスでも、1対1の対話と同じ思いで開催し、まず、こちらのことを学生にわかってもらえるようにアプローチを心がけている。学生の動向、社会の変化に対応するように、毎年スクラップアンドビルドをくりかえしている。個々の学生のキャリアプランをサポートできるように、一年生から気軽に参加できる行事を企画し、あくまでも本人の気づきを大切に、個別面談を重視する。窓口対応は、行きやすい、話しやすい、声を掛けやすいを目指し、常に笑顔。相談のコンセプトは、「ほめて育てよう」をモットーとし、キャリアプランの見つからない学生向けのメニューも開発している。

スタッフには、さまざまな分野のスペシャリストを配置し、T字型人材を目指している。

〈オリジナルなメニュー〉

自分彩発見セミナー／キャリアプラン講座／職場見学会／キャリアアップサポート制度／就職ノート／就職活動貸付金／就職合宿セミナー／就活アドバイザー制度／、社会人になるためのガイダンス など

話題提供要旨

相談の多様化への対応

桐山 雅子

2, 3年前にはリストカット、摂食障害、パニック障害の学生が目立った相談室ですが、今年はひきこもり、不登校、身体症状を訴える学生の相談が増加し、それにもなって親や教職員の相談が多かったように思います。クリニックに通う学生、発達障害の学生も来談します。学生相談室だけを見てもこんな具合ですから、大学内には実に様々な学生がいることが想像できます。このような中、最近の学生相談室の仕事は、青年期から成人期へ、「学校」から「社会」へという人生の大きな節目をのりこえるための発達支援という色彩が強くなってきました。相談内容も多岐にわたり、対象とする学生数も多くなりましたが、相談室で対応できる学生数には限りがあります。このような状況の中で私は学生の「言葉」「人と繋がる力」「自尊感情」を育てること

で、学生達の「考える力（悩む力）」を伸ばすことが必要だと感じています。授業や、学生との普段の人間関係の中でそれらを育むことができるのではないのでしょうか？ 学生相談室発の小さな試みの試行錯誤をお伝えしたいと思います。

話題提供要旨

学生支援システムにおいて学生相談が果たす役割の可能性

山中 淑江

各大学における学生支援は、その大学の諸条件、特に教育理念や目標により大きく異なる。大学ごとの条件に則した学生支援のシステムの在り様があろう。その中で、個々の学生と向き合い、その学生固有の方向性と力を涵養する営みを中核とする学生相談が果たしうる役割の可能性は、広がりも限界も含め、そう大きく異なることはないのではないだろうか。どの大学も多かれ少なかれ財政的な危機感を持つ現在、学生相談機関やその活動が圧迫されることが少なくない。一方、学生の状況は多様化し、多くの大学で相談数が増加するとともに、困難な事例が増加している。学生相談がおかれている現実は厳しいといわざるを得ないが、あえてここでは理想を語ることにしたい。理想を語ることに意味があるからである。大学の学生支援ネットワークのベースとして学生相談機関が機能するためには、独立した組織として備えるべき要件と持つべき機能があろう。本学の特色GP申請に当たっての学生相談活動の概念化、「大学における学生相談体制の充実方策について（報告）」、「学生相談機関に関する調査報告」などから、学生支援システムにおいて学生相談が果たす役割の可能性について検討する。

話題提供要旨

大学改革と学生相談室の活動展開

長谷川明弘

本学は平成7年度から本格的な大学改革に着手し、同時に本格的な学生相談業務が開始された。したがって、大学改革の歴史とともに学生相談業務が歩んできたと言っても過言ではない。

本学の改革の成果については既にマスコミ等でも取り上げられることが多いので、ここでは割愛するが、少子化の時代にあって志望者数を飛躍的に伸ばしてきた事実からも本学の改革がある程度の成功を収めていると判断してよいであろう。

入学生の低学力に対しては工学基礎教育センターでの基礎学力向上の保障、就職に関しては進路開発センター、個々の学生の支援に関しては修学相談室や修学アドバイザーのきめ細やかな働きかけといったシステムが有効に機能している。

このようなシステムの中での本学学生相談室の特徴は、心理臨床の専門家としてのカウンセラーが、学生、保護者、教員、関係部署に対して、個別カウンセリングから、コンサルテーション、関係部署との連絡・調整、外部機関への委託・紹介、危機介入に至るまでの多彩な活動を展開していることである。シンポジウムでは上記のシステムが学生の適応に寄与している例を紹介し、これからのわが国の学生相談室と大学システムとの連携のあり方を考えたい。